

米国姉妹都市派遣高校生 渡航レポート

町内在住の高校生3名が大磯町国際交流協会から7月20日（金）から8月3日（金）までの2週間、米国ウィスコンシン州ラシン市に派遣されました。ホームステイや市民との交流など貴重な体験をされた高校生たちのレポートをご紹介します。

なお、高校生自らがラシン市でのホームステイの様子について報告する「渡航報告会」を9月2日（日）、13時30分から町保健センターにて開催します。どなたでも参加できますので、ぜひご来場ください。

問町国際交流協会事務局（柳田宅） ☎（61）0296

How are you?

小島 真美

私の留学の目的は、大磯町とラシン市との交流を深めること。また、自身の語学習得と将来の進路を見つける旅でもありました。

この2週間という短い時間の中で、ホストファミリーに野球観戦、地元の高校や大学の見学、カヤック、グラス細工、ラシントンリーフエアなど、様々な場所に連れて行ってもらい、おいしい食事も沢山いただきました。（ラシン最高！）

その中でも、印象的だったのが、「How are you?」という言葉です。レストランや街で出会った人たちは、必ず笑顔で話しかけてくれます。また、ホストファミリーは、私や家族が不安にならないように、毎日のように私の家族にメールで状況を知らせてくれました。この「相手を思いやる気持ち」コミュニケーションが嬉しく、出発前は不安でしたが、滞在中、ずっと笑顔で安心して過ごすことができました。

私は今回、コミュニケーションの重要性を学びました。積極的に会話することで、以前よりも自分に自信ができました。まだ、具体的な進路は決まっていますが、一歩前に踏み出すことができました。今後、この貴重な経験を生かし、新しい事にチャレンジしていきたいと思っています。

最後に、姉妹都市協定の方、ホストファミリーに心より感謝を申し上げます。



笑顔から始まる国際交流

住本 達哉

勇気を持って笑顔でたくさんの人とコミュニケーションを取るということを目標として大磯を旅立ちました。

ラシン市に着いた時、最初に感じたことは緑が多くとても過ごしやすい気候だということでした。空港からホストファミリーの家までの車中ではずっと緊張していました。ホストファミリーの家に着いた時、長男のネイソンが僕の荷物を運んでくれ、その優しさのおかげでもりラックスすることができました。笑顔で「Nice to meet you!」それが僕の最初の会話でした。

初日、夕食を食べにレストランに行きました。車のラジオから僕の知っている歌が流れて来たので、みんなで大きな声で歌いました。ホストファミリーとの距離が近くなった瞬間でした。家族の一員として行動することで、初めは聞き取れなかった英語も不思議と耳が慣れてきて、少しずつ理解ができるようになりました。

国際交流について少し難しく考えていましたが、勇気を持って話しかけることでお互い分かり合え、笑顔になれるということが分かりました。

今回のホームステイは僕にとって貴重な体験となり、ますます国際交流に興味を持つことができました。このような機会をくださった方々に感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございました。



ラシンでの経験

安江 理彩子

私が姉妹都市のラシン市を訪れたいと思った理由は、澤田美喜さんの偉業について海外の人に知ってもらいたいと思ったからです。三年前から私は澤田美喜記念館の英語ガイドボランティアを始め、記念館を訪れる留学生に美喜さんが生前収集したキリシタン遺物を紹介しています。美喜さんの二つの偉業である、エリザベスサンダースホームを設立し二千人以上の子どもたちを養育したことと、隠れキリシタン遺物には皆さん驚かれますが、私が驚かされたことは、海外の人々は澤田美喜さんについて全く知らないということでした。そこで、国内の活動だけでなく、国外で美喜さんを知ってもらう活動の第一歩として、ラシンで紹介したいと思いました。ラシン市立図書館で紹介する際、自分の英語で伝えるかとても不安でした。ところが発表後には、英語を何年間学んでいるのか、大学では何を学んでいたのか、将来の夢について尋ねられ、聴衆の皆さんが美喜さんだけでなく私自身にも関心を持ってくださったことにとっても感激しました。

また、台湾人の女性にウィスコンシン大学パークサイド校への留学も勧められたので、今度ぜひ、長期留学としてウィスコンシン州を訪れたいと思います。

